複合乳酸菌 BARUneo 使用の成功例

case1. いちご農園にて

●施策記録（抜粋）

①苗育成

※4 列中 3 列に BARUneo を使用。残り 1 列を不使用で比較検証を行った。

苺は水を上からかけると病気になりやすいので 1 日に 4 回、土にチューブから出るようになっている。苺は 1 年に 1 回苗を植え 11 月の終わり頃から 5 月まで収穫する。

まだ苺が出回っていない早い時期に収穫出来れば高価で売れる。

②土壌作り

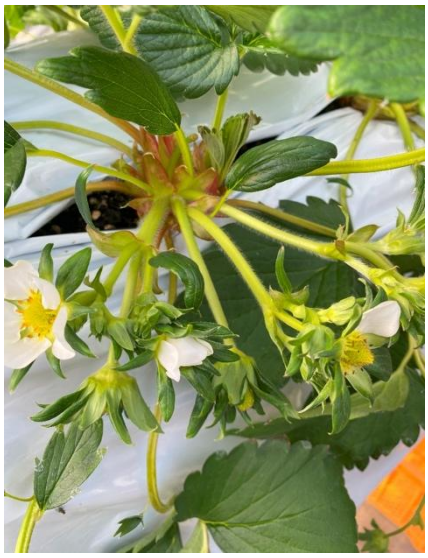
ビニールを掛けて太陽熱消毒する。

苺にとって悪い菌は 50℃から 60℃で死滅する。BARUneo は 100℃まで上がっても死滅しない。

土壌の中の粒々はバチルス菌のペレット。土はふわふわで温かい。今後その土にさらに BARUneo を加えたいと考えている。（菌の共存）

9 月 20 日以降に苗を植える。

BARUneo 使用の苗が茎も太く非常に良い状態であったためすべての苗に BARUneo を使用した。



●収穫記録

令和 6 年度は猛暑が続き収穫が遅れると予想されたが、12 月中旬から収穫する事が出来た。

品種【よつぼし】は昨年 1 月の最も甘い時期で 12 度から 14 度、今年は 12 月初旬で糖度が 16 度ですでに昨年の糖度以上である。3 月末日の糖度測定は 15 度であった。

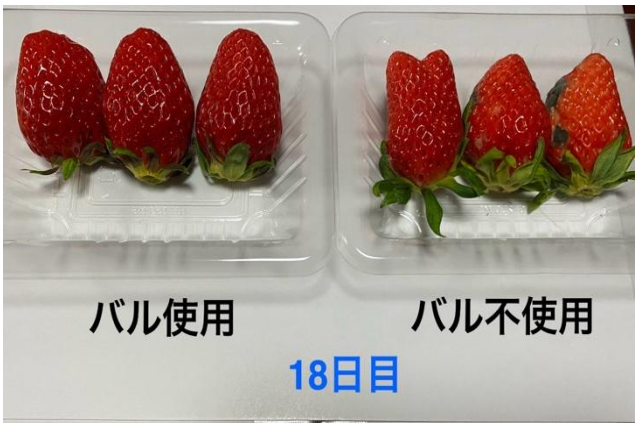
●前年比較(BARUneo 不使用)

① 収穫時期が早く、長い　② 果実の糖度が上昇
③ 蜂が活発である　④ 果実が大きい
⑤ 土壌に糸状菌が多く病害なし　⑥ 収獲量の増加

●第３回全国いちご選手権で【よつぼし】初入賞

●収穫後比較検証

BARUneo 使用のものと比較し、BARUneo 不使用のものはカビの発生が早く、劣化速度に明らかな差がみられた。



2025 年 3 月作成
GSL NEO JAPAN